

自分の思いを豊かに表現する子の育成

副題

～ICTを活用して、「聞く、話す」ことを大切にした
授業づくり～

学校名

名張市立桔梗が丘南小学校

所在地

〒518-0625
三重県名張市桔梗が丘5番町12街区38ホームページ
アドレス<http://www.nabari-mie.ed.jp/e-minami/>

1, はじめに

本校は、『自分の思いを豊かに表現する子の育成』を研究テーマとし、国語科を中心に研究を進めて4年になる。全校集会での学年発表や音読・暗唱に取り組むことで、「表現することに対する自信がついた」「言葉を意識し、すらすらと音読できる子が増えた」といった成果がある。しかし、相手の思いを受け止め、さらに自分の考えを伝える力が弱い、伝えるための語彙が少ないことは課題となっている。また、本校の特色でもある名詩名文の暗唱、五色百人一首大会の実践の積み上げは、児童の成長に大きく影響していることは確かであるが、「児童は自ら工夫し、意欲ある学びをしているか。」「教師はわかる授業のために、教育機器、教材教具を十分に活用しているか。」など大きな課題もある。

2, 研究の目的

名張市教育委員会より昨年度までに、大型テレビが全学級に、また英語学習を中心に活用できる電子黒板1台、職員室では一人1台パソコンが配置された。情報教育のための教育機器の設置は少しずつ充実してきているが、まだまだ、「チョーク1本で勝負する」「手書きの方が味があり、早くできる」と考える教職員がいるのは確かである。また、「情報教育は堪能な人に任せておけばよい。できない者は仕方がない。」という考えの教職員もいる。

毎日多くの映像情報の中で暮らしている児童にとって、資料や教材をより鮮明に五感に訴えるICTの活用は、学習への意欲を喚起し、より理解を深めることにつながると考えた。効果的なICT活用は子どもの学習を支援し、学力を高めるツールになるに違いないと確信し、全校一貫した指導が容易となり、教師力、授業力向上、共に学び合う教師集団といった組織力向上の効果も期待した。

3, 研究の方法

本校では、テーマ実現のために次のことに取り組んだ。

- 1, ICT機器活用のための環境整備
- 2, 校内研修での共有化・活性化
- 3, 授業の中で効果的にICTを活用するための交流会実施
- 4, 教育実践への評価・改善サイクル

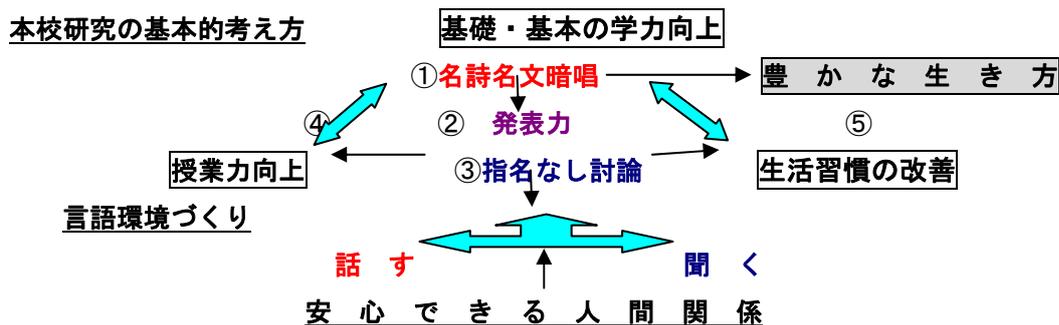
4, 研究の内容と経過

(1) ICT機器活用のための環境整備

昨年度当初、本校には使用可能なプロジェクター1台、実物投影機は1台もない状況だった。助成金により早速実物投影機6台、プロジェクター1台、簡易スクリーン1枚、PTAからの補助金で実物投影機2台を購入し、全学級で授業実践に取り組んだ。「常設していない教育機器は活用できない」といった意見もあり、常に大型テレビに接続しすぐに使える状態まで整備した。

「いつでも、どこでも、だれでも」使えるICTを合い言葉に教育実践に取り組んだ。

(2) 校内研修での共有化・活性化



①名詩名文暗唱・・・基本30編チャレンジ20編、五色百人一首の暗唱。暗唱方法の検証。

②発表力・・・「もの・こと・ひと」について話し合う活動の中で、デジカメで撮影し、コンピューターや実物投影機を使って写真に自分で考えた言葉をレイアウトする。作品を相互評価、意見交換をして改善していった。児童集会で一年を通じて全学年が発表する。6年生は「修学旅行を在校生に伝えよう」はグループでプレゼンをし、体育館で発表をした。

③指名なし討論・・・発表・討論で高める思考力を目指した。指名なし音読→指名なし発表→指名なし討論の流れで力をつける。どの教科でも応用する。自分の根拠とする考えは実物投影機に自分のまとめを映しながら説明した。

④授業力向上、基礎・基本の学力向上・・・フラッシュ教材を活用した基礎・基本の習得、国語開始の5分間の暗唱タイム、どの学習にも効果的に実物投影機を活用した。

指示を伝える書き込みの工夫。手元にある教科書にある囲み方と画面上の書き込みが一致する。明確な指示を伝えるための工夫。挿絵の拡大。全体像の挿絵から部分にズームイン。手元に同じ挿絵があっても、部分にしっかり注目させる拡大提示の効果。朗読をどのように聴かせるか。挿絵をどう見せるか。教科書に何を書き込むか。授業者の明確なねらいをもってICTの活用を自ら研究した。

⑤生活習慣の改善・・・早寝、早起き生活習慣チェック。家庭学習の徹底。HPで情報啓発。

(3) 授業の中で効果的にICTを活用するための交流会実施

①教育講演会で学習 演題 「学力向上のためのICT活用とは」

名張市の5校が「学力向上のための予算」を、5校合同研修会として活用した。

- ・ 日時 平成22年12月8日(水) 13:45～15:20
- ・ 場所 名張市立桔梗が丘南小学校 体育館
- ・ 講師 玉川大学教職大学院教授 堀田 龍也氏

- ・ 参加 5校の教職員 津市の教職員

桔梗が丘南小学校すべての学級の授業を参観する。参観した授業についても講演会の中で語ってくれた。① ICTだけの授業ではない ②フラッシュ型教材を使った授業 ③指差すことの重要性 ④授業づくりはICT以前のことなどを教えていただいた。

② ICT活用授業実践セミナーへの参加

先進事例や授業づくりのアイデアを得るために「フラッシュ型教材活用セミナー」にみんなで参加した。

- ・ 日時 平成24年1月28日(土) 13:00~16:30
- ・ 場所 三重県名張市美旗市民センター 多目的ホール
- ・ 参加内容 フラッシュ型教材を作成、ワークショップ、模擬授業

授業のどの場面で、どんな発問をし、どのように教材を活用していくか体験的に学ぶよい機会となった。

校内研修会の工夫

全体研修会ではグループ協議やワークショップを取り入れて、工夫点や改善点を明確にしてきた。個々の教師が「わかる授業」を意識、工夫することで研修会がいきいきしていった。「あんなことができるんだ」「こんなことにも使えるんだ」「こんなことをすると失敗するよ」「子どものこんな声が大切だよ」など伝え合い、学び合う姿が見えてきた。また、模擬授業による交流会は日常に行う授業の指導法の振り返りと向上につながっていった。

一人の100歩より百人の一步に価値を見出す研修会

実践交流より

1年生の実践

<どのような活用の仕方をしたか>

- ・ 実物投影机で様々なものを映して、説明に使う。
- ・ ノートやプリントを拡大投影する。
- ・ ブロック操作(算数)書き順の指導(国語)
- ・ ふきだしを教科書にのせて、自由に発表させる。

(できるようになったことの発表で)

<授業者のコメント ここがポイント 子どもたちの様子>

基礎基本の定着に効果、大画面に映すことによって、集中しにくい子も集中することができた。

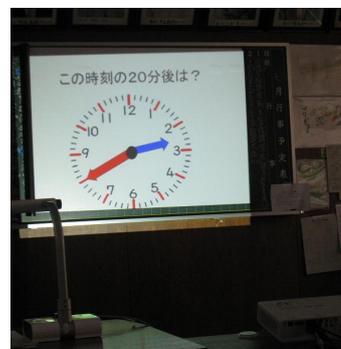
2年生の実践

<どのような活用の仕方をしたか>

- ・ 算数の教材を大きく映す。(ものさし、時計など)

<授業者のコメント ここがポイント 子どもたちの様子>

自分の手元にある教材と目の前に映る教材をあわせながら学習することで、よりわかりやすい授業となった。



3年生の実践・習字セットを使って

<どのような活用の仕方をしたか>

- ・実物投影機で習字道具を写し、名前を確認。道具の使い方や、筆の持ち方など初歩的な説明を写しながら行なう。
- ・実際に書きながら筆使いを見せる。穂先などに注目させる。
- ・習字道具の準備や後始末の方法も実物を映しながら説明する。

<授業者のコメント ここがポイント 子どもたちの様子>

実物を写しながらの説明は、子どもたちが集中して行なうことができるのでよい。

道具の後始末の方法や、筆の持ち方など、タイムリーに映しながら支援ができるのでよい。完成した作品を映すこともできる。

少人数なら、前回の作品をSDカードに保存し、前回の作品と今回の作品の違い等を比較することができる。



3年生の実践・・・植物のしくみ

<どのような活用の仕方をしたか>

- ・実物投影機でハウセンカとマリーゴールドの根・茎
- ・葉を映す。それぞれの部分の名前を学ぶ。両方の苗を比べてみて、似ているところ、違うところを見つける。

<授業者のコメント ここがポイント 子どもたちの様子>

実際に抜いてきた苗を映すことで、子どもたちがじっくり観察できる。5cmほどの苗を大きく映すことで、根の一本一本までよく見えることになる。

苗を置くのは、黒い色画用紙を使うと、一層根や茎の様子がよく見えてよい。



4年生の実践

<どのような活用の仕方をしたか>

- ・図工の色の塗り方を見せる。
- ・はじめはフラッシュ教材を使って方角の反復練習
- ・単元の導入として、教科書に載っている火事の写真を実物投影機で映して気づかせ、交流する。
- ・火事が起こる原因について考えた後、DVDで火事の原因を知る。

<授業者のコメント ここがポイント 子どもたちの様子>

フラッシュ教材はテンポよく行うことが大事。

ワークシートの投影も効果がある。

火事の写真を見て気づきの交流は、画面をうまく使って子どもに説明することが大切であった。DVDによってわかりやすい資料提示は、視聴している子どもたちを引きつけ効果があった。



5年生の実践

<どのような活用の仕方をしたか>

- ・漢字ドリルをテレビに映し、全体で読みの確認をする。
- ・社会の教科書にある写真を映し、子どもに説明を促す。
- ・算数の数直線・線分図・表を提示し、全体で確認する。
- ・丁寧に書かれている子どものノートを映し、他の子どもに参考させる。

<授業者のコメント ここがポイント 子どもたちの様子>

教科書の線分図を写映することは、子どもの作業回数を減らし、集中力を持続させるのに有効である。

漢字ドリルを提示することで、全員で読みを確認でき、読みの苦手な子ども苦に感じないで思えることができた。

ノートの提示をされた子どもは励みになり、他の子どもは自分のノートをまとめる参考にしていった。

6年生の実践

<どのような活用の仕方をしたか>

- ・国語の漢字学習、教材提示（動画や朗読）
- ・プリントを提示し、電子ペンで解答を書く。
- ・児童のパソコン係をきめ、電子ペンで漢字ワークをしている。



<授業者のコメント ここがポイント 子どもたちの様子>

漢字の書き順などわかりやすくよい。朗読、とりわけ狂言の朗読は動画とともに、音声、文字と連動したのが見られるので大変わかりやすい。

電子ペンを使うことに興味を持っているので、学習に大変意欲的になっている。

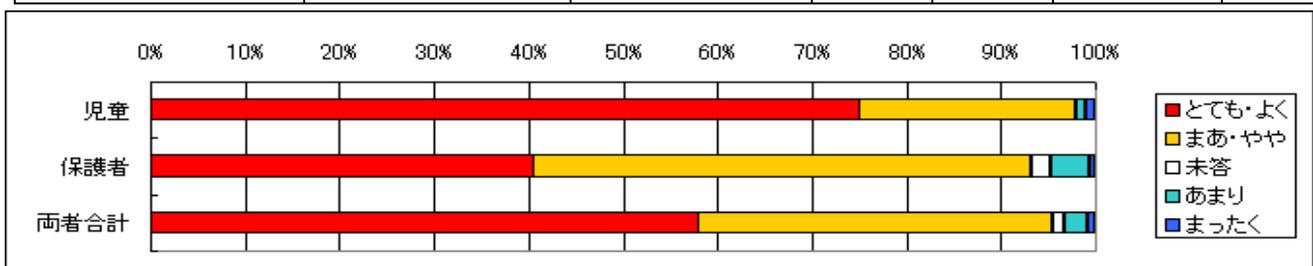
社会の資料など、注目させたいところを拡大することができるので、子どもから見てもわかりやすい。

(4) 教育実践への評価・改善サイクル

年2回7月と2月に行っている学校評価では全体満足度は90%以上を得ている。年度のより違いはあるが「わかりやすい授業に努めている、工夫して取り組んでいる」ことは評価いただいている。

2. 教師は、わかりやすい授業、きめ細かな指導に努めている。

	とても・よく	まあ・やや	未答	あまり	まったく	合計
児童	146	45	0	2	2	195
保護者	77	100	4	8	1	190
両者合計	223	145	4	10	3	385



地域とのつながりの中で、地域、保護者に授業公開し、大型テレビを活用したICT活用実践や効果を保護者だけでなく、地域の方にも発信することで、学校教育への信頼を高めることができると考える。

5、研究の成果と今後の課題

- ・毎日朝から全学級で実物投影機とパソコン、大型テレビが使える状態になった。
- ・ICTをチョークや黒板と同じように活用する教師が増えた。
- ・資料提示・発問・指示に注目を集める授業研究を進めている。
- ・デジタル教科書を活用した授業モデルが今年は6年だけであったが、これから他の学年にも広めていきたい。
- ・ICTを使って、特別なことを目指すわけではなく、日々の授業をわかりやすくするためのICT活用であることを理解してきた。
- ・相互評価で自らの授業力を確認することができた。模擬授業の交流をすることで、一人では得られない気づきを得ることができた。
- ・今後は児童の学びのツールとして活用を進め、児童の学習意欲にさらにつながることを願う。
- ・教師のICT活用を指導する能力は伸びてきているがまだまだ「ややできる」と応える教師もいる。さらに能力開発と自信をつける研修を行っていきたい。